

WEF Nutrient Recovery and Management 2011への参加

前研究第一部

主任研究員

加藤 薫



WEF Nutrient Recovery and Management 2011

2011年1月9日から12日の4日間にわたりアメリカ合衆国フロリダ州マイアミにおいて、WEF主催の「Nutrient Recovery and Management 2011」が開催されました。この会議は「窒素・リンの栄養塩物質についての回収利用とマネジメント」をテーマとして掲げ、16セッションに分かれて91の研究発表と24のポスター発表が行なわれました。

日本からは本機構をはじめ、日本下水道事業団、京都大学、熊本大学が参加しました。

リン資源化で2テーマを発表

下水道機構からは、南、加藤の2名が参加し、「日本での下水道におけるリン資源化の手引き」、「リン資源回収技術の経済性評価について」の2テーマを発表しました。特にリン資源化の手引きに関しては関心が寄せられていました。私自身は慣れない英語の発表でリン回収技術の経済性評価を述べましたが、発表練習の甲斐あってか、非常にわかりやすい内容であったとの評価を参加者の方からいただき、報われた気がいたしました。

会議の初日の基調講演では、アメリカ合衆国東部の



会議での発表の様子

チェサピーク湾やオハイオ流域でのノンポイント汚濁負荷を含めた栄養塩の排出権取引の取り組みについて紹介があり、参加者の関心を引いていました。農業も対象として含めた取り組みが近々試験的に行なわれ、その後本格的な取り組みが進められる予定であり、その活動が目される所です。その他、リン資源化利用についての国別のニーズ調査やリンの超高度処理のコンペ方式での技術評価など興味を引く発表がみられました。

湿地帯を利用した雨水排水浄化エリアを視察

フロリダ半島先端には世界遺産として登録されているエバーグレイズ国立公園があり、広大な湿地帯が広がっています。マイアミの北北東約70kmにはその湿地帯を利用した雨水排水浄化エリアが設けられており、雨天時の雨水排水を特別に区画された湿地帯で自然浄化する実証の場を視察する機会がありました。

雨水排水を湿地帯に張り巡らされた配管を通してポンプステーションから送水し、長時間かけて自然浄化を行う方法です。湿地帯には多種多数の鳥類のほか多くのワニも生息しています。大自然を上手に利用したエコロジカルな仕組みを目の前にしての、人間社会と自然との調和の重要性を再認識する貴重な体験でした。

雨水排水浄化エリアの湿地帯風景
野鳥の群れ